

H18.12.21 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成18年12月21日(木) 10時00分～13時00分

議事概要：

表 H18.12.21 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・過去の検討経緯について確認した。	・特になし	・特になし
2.ハビタット解析について	・ハビタット解析結果の報告を行った。 (リーチスケール解析結果について)	・勾配などの影響を調整しても河川間で生息確率に違いがあることの要因を追求すること。	・事務局：河川間の違いに関する影響要因が多く、一方で河川の本数が少ない(サンプルサイズが小さい)ことから、生息確率に何が効いているかを統計的に絞り込むことができない。ただし、河川間の特徴の比較などは進める。
		・護岸等の構造物について、透筋に直接影響を与えていると考えられるものを区別すること。	・事務局：現在保持している護岸の位置に関するデータの量と質について点検し、可能であればそれを取り込んだモデルに修正する。
		・ネコギギの分散の影響と、未知の環境要因の空間的自己相関の影響の分離を行うこと。	・事務局：波及効果を入れたモデルを用いるなど、検討を進める。特に、効果の上下流方向へ波及の仕方から分散の影響を考慮できるか試みる。
		・ネコギギと他魚種との出現類似性を考慮した解析を行うこと。	・事務局：過年度の他魚種の調査結果を整理して、出現類似性について検証する。
(マイクロハビタットスケール解析結果について)		・マイクロハビタット解析について、今後、季節変化及び流況の変化を解析に加味できるか検討すること。	・事務局：冬季生息場調査を平成18年度中に実施する。また、流況の変化については、豊平低湯時の流速水深を計算し、適性ハビタットの量と分布の変化を検討する。また、増水時の流れについて検討する。
		・繁殖場の評価は、今後の生息環境の整備を含め、重要な課題である。繁殖場の情報追加に努めること。	・事務局：次年度以降も継続して繁殖場調査を実施する。
		・より詳細なデータ取得には、野外あるいは室内の施設における実験も含め検討すること。	・事務局：今後検討する。
3.平成18年度の野外実験について	・平成18年度の野外実験の経過を報告した。	・特になし	・特になし
4.平成19年度の野外実験計画について	・平成18年度野外実験の結果を踏まえ、平成19年度計画の変更計画(案)を提案した。	・現生息淵に影響を与えない採捕個体数の設定について、今年度得られた知見を踏まえ検討すること。	・事務局：PVAのパラメータについて、現在は親魚として採捕した個体は死亡と見なしているが、戻し放流の成果を反映させるかどうか検討する。
		・採捕個体数を増やすことについては、採捕元淵の存続性の条件をクリ	・事務局：採捕元淵の存続性確保を条件に、採捕個体数の増加申請を

		<p>アできているなら問題はない。飼育個体数の増加等、実験の成功率を高めるための準備は進めて頂きたい。</p>	<p>行う。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアリングについては、既往検討における遺伝的多様性を確保する組合せの規定に反しなければ、1対複数で行ってもよい。なお、複数個体のを用いる場合は、最終的には水槽に仕切を入れる等により、1対1の状態を作れるように勘案すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：1対複数 のペアリングにおける操作条件を整理し、対応可能な体制を取る。ただし、実際に実施するかどうかは、親魚確保数、ペアの状態を見て判断する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・採捕時期について、来年度は、試験的に一部の個体を春～初夏に採捕し、成熟の状態等を自然個体と比較すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：春の時期の一部の個体採捕を計画に採用する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・継続飼育は、飼育技術向上のために有効な手段である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：飼育技術向上を目的として、継続飼育の申請を行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・長期飼育した個体は、魚病や、野生離れ等の問題が生じる可能性があり、採捕した元淵に再放流できない可能性が高いことを踏まえ、検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：継続飼育は、その年の飼育個体の生存状況と繁殖状況を勘案し、行うかどうか検討する。なお、継続飼育を行った個体は、野外へ戻さない方針とする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖に成功した施設に、昨年度までの飼育法と、今年度の飼育法とで何が異なっているのかを確認すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：繁殖に成功した施設に確認し、次回検討会で報告する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・採捕方法について、トラップ等、より調査圧の低い方法を検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：既往調査事例を収集・整理し、採捕方法について検討する。なお、採捕方法の変更に際しては、文化庁への申請内容を変更する必要がある。
5.支川における野外実験計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・支川における野外実験計画を提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支川での実験の追加は、ハビタット解析の課題を踏まえ、今後慎重に検討すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：支川における野外実験については、あらためて実施方針を整理する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・過去にネコギギが生息していた場所に、現在は何故生息していないのか原因を検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：対象河川における過去の生息状況、現在の他魚種・底生動物等の生息状況と現生息地の比較、護岸工事等外部的な要因の情報整理などを行い、現在生息していない要因とその要因の継続状況を整理する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・その際、生息していない原因が潜在的な河川のポテンシャルなのか、護岸工事等の人為的な影響によるものなのか、検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：河川のポテンシャルとして、以下の2項目から検討する。河床勾配から考えられる良い場所の距離及び他の河川パラメータの比較（ハビタットの量）、聞き込みによる過去に分布していたときの個体密度（質）。
		<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備を行う際には、マイクロハビタット解析の結果を踏まえ構造物等を検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：構造物の検討に際しては、マイクロハビタット解析の結果を踏まえて、目的に応じた構造物を採用する。
6.今後の調査・検討計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・ネコギギの保全に関する今後の調査計画案を提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
7.その他		<ul style="list-style-type: none"> ・調査区域内でイワメが採捕されたとの情報提供があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：イワメの保全については今後検討する。